

しあわせおっばい通信

岐阜県総合医療センター 9階西病棟 Vol.58 秋号

テーマ：RSウイルスと母乳育児について



病院 HP



RSウイルスってなに？

RSウイルスはRSウイルス感染症を引き起こす感染症です。生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。RSウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。

発熱、鼻汁、咳などの上気道症状が数日続き、数日の内に軽快する事が多いですが、呼吸困難を伴う重症化するリスクもあるため注意が必要です。

妊娠中にRSウイルスのワクチンを接種することで
新生児や乳児がRSウイルス感染症になることを予防することができます。



ママがRSウイルスに感染した状態で、子供に母乳をあげても大丈夫？

RSウイルスは、ウイルスが付着した物を知らぬ間に触ってしまい、その汚染された手で口を触ったり、目をこすったりする事で感染する接触感染と、咳やくしゃみによるウイルスの噴射を浴びることによる飛沫感染により感染します。そのため、ママがRSウイルスに感染していたとしても、母乳を介して赤ちゃんにRSウイルスが感染することはありませんが、授乳前後の手洗い、授乳中のマスクの着用は忘れないようにしましょう。



赤ちゃんがRSウイルスに感染している場合、授乳中に注意することは？

赤ちゃんがRSウイルスに感染している場合、咳や鼻水が出て呼吸しづらい状況にあることがほとんどです。RSウイルスのピークは4-5日目であり、鼻水の量と咳の回数が徐々に増えていきます。そのため、上手におっぱいを吸うことができず、普段より母乳の飲みが悪くなるのが考えられます。9階西病棟に入院している赤ちゃんは、鼻水が多いときは授乳前に吸引して、呼吸しやすい状態で授乳ができるようにしています。吸引をした後でも鼻水は出てくるため、授乳は普段より時間を短くして回数を増やすなど赤ちゃんの様子や機嫌に合わせて調整してみましょう。

